



TITLE:

資料紹介:大阪図書出版業組合編 享
保以後大阪出版書籍目録 昭和39
459p 清和堂刊

AUTHOR(S):

CITATION:

資料紹介:大阪図書出版業組合編 享保以後大阪出版書籍目録 昭和39
459p 清和堂刊. 静脩 1965, 1(3): 5-5

ISSUE DATE:

1965-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36237>

RIGHT:

話は違いが合唱をする中に、合唱の味、すなわちハーモニーの美しさや、共に歌う仲間が心が解されていくだろう。図書館にあって同様だ。学習の内容は違っても個々人の自学自習の場である。真剣に仕事に取りくむ場である。そしてその中から“図書館の味”が解されていくのだから。とは言え、この味をかみしめるべき大前提を知らぬ者、忘れてる者が多いようだ。“図書館の味”を作り出すのはそこに会ったものの役目である。話は慎しむべし。鼻をならすのも慎しむべし。歯をぎしぎしされたらたまらない。図書館へ来て最も嫌なものは“図書館の味”をかみしめよ

うとしない人だ。

この「静脩」の前号で図書館に入って左に掲げてある「雲」の事が書いてあったが、この「雲」はいつまでたってもうすよごれた「雲」である。「すぐれた美のかたちを秘めながら静かにほんとに静かに流れている。」図書館の雲は、雲自身の涙でほこりを洗い落さねば、本来の姿に返ることができないのか。

こんなところにも、私たちのまわりの何か殺伐とした感じが象徴されているように思われる。せめて図書館からでもそうした感じは拭い去っていききたいものだ。

(理学部2回生)

資料紹介

- 日本資料協会編 **日本年鑑類総目録** 昭和39年3月末現在 昭和39 236P 清和堂刊

さきに刊行された「戦後日本年鑑類総目録」に600余点を追加、総計2,800点の年鑑類を収録する。年鑑と題するものとともに、年刊の官公庁・会社・研究機関の要覧、統計、調査報告を主とし、若干の人名録、図書目録を含んでいる。学術研究報告についても誌名に年報と題したものを収録している。これらを主題別に分類排列し、巻末に書名索引、発行所名簿を附しているが、従来このような年鑑類の目録が見られなかっただけに貴重である。

- 清和堂編集部編 **戦後日本雑誌総覧** 社会科学の部 1963年3月末現在 昭和38 161P

昭和21年以後昭和38年3月末までにわが国で刊行された社会科学関係の雑誌1,000点の要覧である。戦後逐年増加する雑誌のおびただしい発行、改廃に備えて、出版事項を端的に知り、調査研究者に便ならしめんと意図のもとに編集されたもので、誌名の五十音順排列。編者、発行所、創刊年月及び最近の巻号とその価格が記載されており、また巻末に編者・発行所の所在地が附されているから、発注またはバックナンバーの入手にも便利であろう。

- 慶応義塾大学ス道文庫編 江戸時代 **書林出版書籍目録集成** 巻1～3、索引 昭和37～39

4冊 井上書房刊

本書はその名の示す如く江戸時代に江戸・京都・大阪の書肆が刊行した当時の出版目録の集大成であって、かねてより慶応大学図書館に江戸時代の書籍目録のコレクションとして収集されていたものを写真版とし、それに解説を附したものである。これらの目録は現今の出版年鑑に相当するものであり、現在判明しているものは23種、寛文より享和に至る間に刊行されている。そのうち14種は全巻を本書に収載し、残りは増修版であるから増修の箇所のみ掲げてある。本書によって江戸時代の板行情況を具さに知る事ができると共に、書誌学上にも活用範囲が広いと思われる。

- 大阪図書出版業組合編 享保以後 **大阪出版書籍目録** 昭和39 459P 清和堂刊

この本は昭和11年、大阪図書出版業組合事務所に保存されていた記録「開板御願書控」(享保9年2月～明治6年12月)34冊を本体とし、大阪書籍商仲間沿革略・書名及著者索引・絶板書目を附して刊行したものの復刻版である。願書であるから、ここに記載のものがすべてが許可されて開板されたものとはいえないが、大阪において出版された図書のみが年代順にまとめて集められているので、出版業のほとんどが東京に集中している今日、往時の上方特に大阪出版界の盛況を物語るものとして貴重な資料といえる。